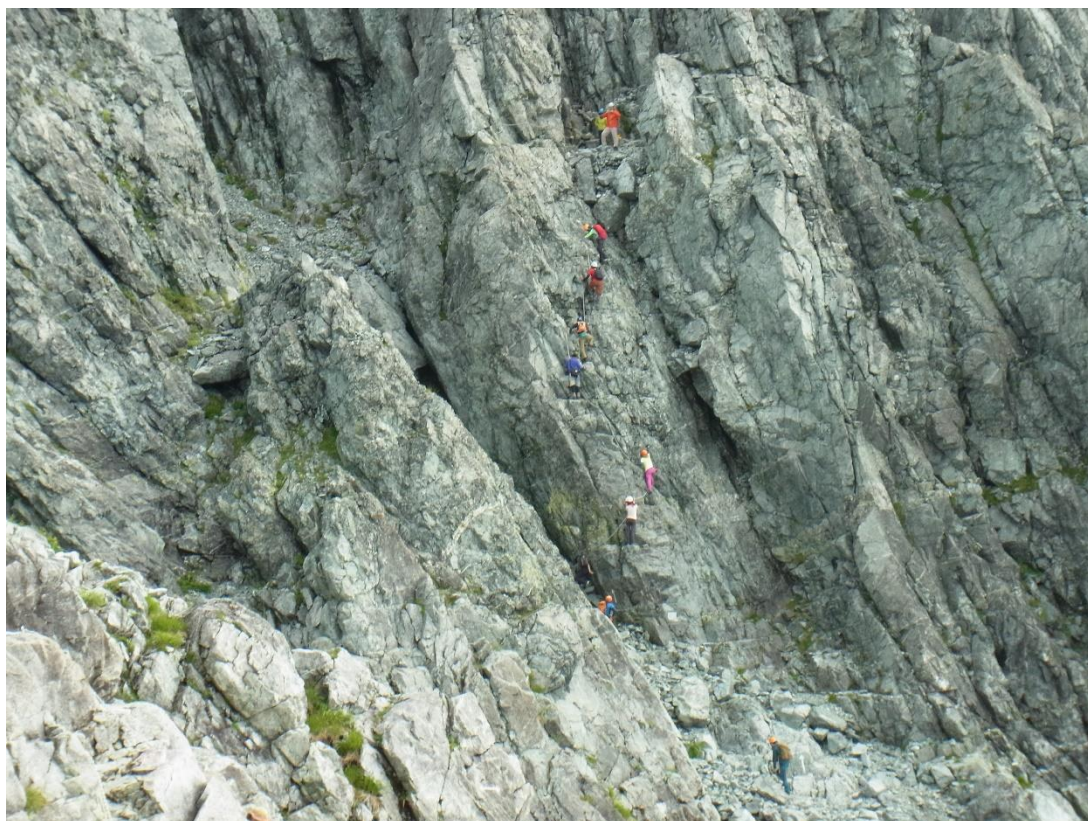


2017年夏 劔岳別山尾根から早月尾根



劔岳別山尾根カニのタテバイ

記録 福澤 卓三

日時：2017年8月8日(夜)～8月13日

メンバー：L福澤 卓三、女性会員1名

コースタイム：

8月8日(火)

新宿バスタ(22:50)－富山(5:20)

8月9日(水)

富山(7:07)－立山(8:17)(8:40)－美女平(8:47)(8:50)－室堂(9:35)(10:00)－
別山乗越(14:00)－劔沢(14:30)

8月10日(木)

劔沢(4:05)－劔岳(9:50)(10:20)－早月小屋(伝蔵小屋2224m)(14:50)

8月11日(金)

早月小屋(6:00)ー馬場島キャンプ場(10:50)

8月12日

馬場島荘でベルニナ山岳会の追悼集会

8月13日

馬場島のお堂前で追悼ー帰京

8月8日

新宿バスタを22時50分発。以前は満員の夜行列車で行ったことを考えると、席取りを必要とせず、出発の30分前に行けばよいので楽である。しかもリクライニングシートでバス代も安く4400円である。熟睡できなくても、心静かに体を休めていれば結構休めることも学習した。

8月9日

富山に7時07分に到着した。富山地方鉄道で立山まで行くつもりが、岩嶺寺から先に倒木があり、岩嶺寺から振り替えのバスで立山駅に行った。天気予報通り小雨が降っている。美女平～室堂は雨はやんでいたが、室堂に着いたときは雨が降っていたので、雨具を着て出発。雷鳥沢から別山乗越まではザックの重さと体重オーバーで辛いのみである。この頃には天気も回復してきて、明日の天気予報もよく希望が持てる。お盆休みの前なので劔沢のテントは思ったより少ない。ここは水も豊富にあり、トイレもきれいで快適である。



劔沢のテント場

8月10日

今日だけなんとか天気がよければと思っていたので好天気よかった。カニのタテバイが混むことが予想されたので、4時に出発したが、剣沢からピストンで軽いザックで本峰を往復する若者が多く、重荷を担いだおじさんは抜かれっぱなしで、カニのタテバイについた時は最後尾で順番待ちをすることもなく取り付いた。スタンスもホールドもあるので、それほど悪いとは思わないが、初めて登る人には緊張する所である。ここを過ぎる頃には疲れもたまり、



平蔵谷



カニのタテバイ

ホキホキである。ガレ場をひとふんばりすると頂上に着いた。一休みしていると昔なじみの志村さんにあった。山で知っている人に会うとうれしい。多勢を案内してきているようだ。我々も記念撮影をして一足先にくだった。春来たときにカニのハサミが悪かった思い出があったが、今回は全然緊張なくて通過した。その後のルートにこんなに鎖場があったのかと思うほど鎖場が続いた。どうも4・5年前につけられたらしい。考えてみれば9回頂上に立っているが雪のない早月尾根の登りも下りもしたことがない。下りは体重オーバーでも楽であるが、時間的に馬場島までは無理である。テントを担いできたが、まあいいかと早月小屋泊まりにした。小屋の外でくつろいでいると、志村パーティーが下ってきて懇親会になった。志村リーダーを囲み皆さん楽しそう。このパーティーは元気で明るい仲間である。志村さんの人柄だろう。



志村さんの仲間達



ごちそうさまでした

8月11日

6時に小屋を出発。相変わらず急で長い尾根を下っていくとベルニナ山岳会の田辺夫婦が登ってきた。久しぶりの挨拶と明日の再会を約束した。本日は早月小屋にテントを張るとのことである。途中で下山した奥さんには次の日に馬場島で再会した。

結構いいペースで下山したつもりだったが5時間近くかかり馬場島に到着。ベルニナ山岳会の鎌田さんも登ってくると聞いていたので途中で会えるのを楽しみしていたが馬場島であった。

もう少し後から下山してくると思っていたが志村さんも下山してきた。予約してあるタクシーに当会の会員も同乗させてもらい、ここで見送った。

このキャンプ場は無料で炊事場もトイレもきれいである。さすが馬場島。手入されたキャンプ場にテントを張って昼寝をしているとエッホの音がする。出てみるとベルニナ山岳会の日高さんである。外で一杯やるぞと声をかけてもらい岩の上で飲み出すが雨が降ってきたので、私のテントに移動して今夜はここに寝てもらおうことにした。

8月12日

本日はベルニナ山岳会の追悼集会在馬場島山荘である。午後から見慣れたベルニナ山岳会の会員がぞくぞく到着してきた。炊事場で山鳥のだしの鍋が始まった。遠いところからやってきて、仲間にいろいろなうまそうな具をたくさん入れて食べさせてやろうとしている。さすがベルニナである。これが伝統の山岳会の底力。このようなことが当会も年々薄れていきさみしい。

飛び入りでイワナを釣りに来た人が仲間に入り、岩魚の塩焼きを食べさせてくれた。この岩魚はきれいで、うまいといていた。入漁料もいらなそうである。一度つりに来たいものである馬場島荘に移動し風呂に入った。きれいで立派な山荘である。山の中にいるような気がしない。食堂で飲み会が始まった。大先輩の秦野さんは欠席していたが、私の知っている会員の人たちは先輩から年下の皆さん全員揃っていた。うらやましい。皆さん楽しそうで、また幹事も頑張っていて活躍していた。

8月13日

朝食後馬場島にあるお堂前に宮司さんにも来てもらい、ベルニナの旗やお供物を供えて追悼が始まった。このお堂は、馬場島の上の白萩川で工事があるときに、工事現場内にあるレリーフを集めて収納した立派な建物である。ベルニナ山岳会の他に雲稜山岳会のレリーフもあった。追悼式は立派に行われた。私もそうそうたる先輩の後、他の団体代表ということで玉ぐしの拝礼の役目を仰せつかり恐縮した。その後槍ヶ岳の追悼集会に参加する会員と帰京する会員に別れたが、私は高速バスをキャンセルして尾山元代表の車に乗せてもらい帰京した。



馬場島荘



お堂



追悼式



宮司さん



渡辺代表



ベルニナ山岳会のレリーフ



お堂の中



馬場島の追悼式の手締め



ベルニナ山岳会の参加者